

# 研究者情報ブラウジングツールの開発と Web 情報資源の統合へ向けて

高久雅生（情報・システム研究機構 新領域融合研究センター）

国立情報学研究所が提供している科学研究費補助金データベース [1] の採択課題、実績報告書、成果報告書を元にした、研究者情報のブラウジングツール（図 1 参照）の開発を行っている [2]。このシステム概念図を図 2 に示す。研究者情報を科研費データベースから抽出するとともに、これらを他の Web を始めとする他の情報源と関連付けて提供、可視化することにより、より効率的な研究者情報の提供や研究者ポータルサイトの構築が可能になる。

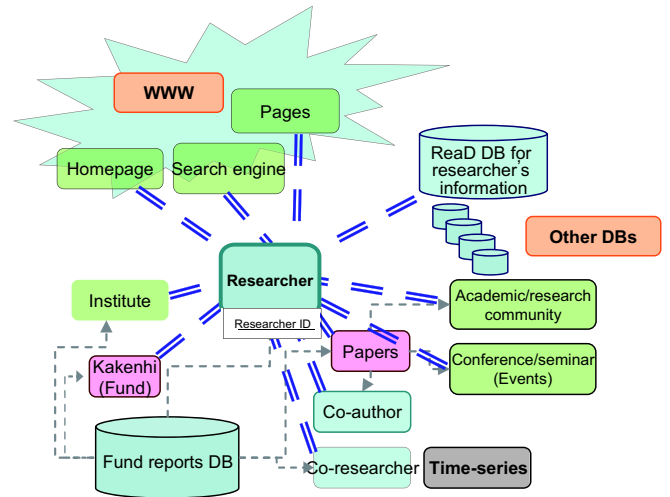


図 2 研究者情報の抽出と統合

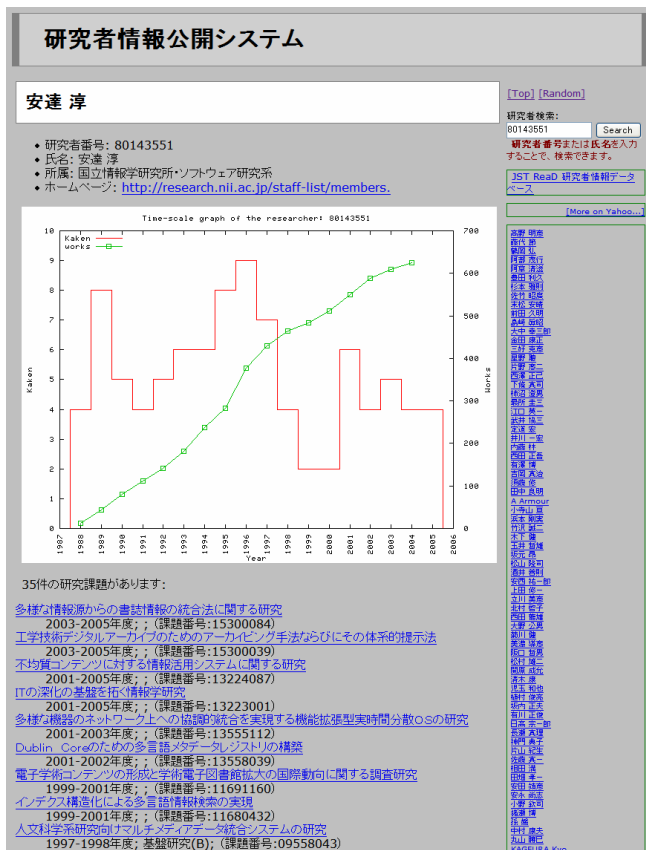


図 1 研究者情報表示画面

このシステムの目的は、研究者に関する情報提供サービス、Web における多様な情報の活用 の 2 つに大別される。

1. 学術コミュニケーションにおける人材育成や研究者同士による学術交流の観点から、その基本的な情報として研究者情報を公開し、産学連携、研究交流に活かしていくことが広く行われている。また、科研費は国内最大の学術研究ファンドであり、これを用いた日本の学術研究動向の分析等の研究も広く行われている。本システムにより、より精緻な粒度での研究者情報の確認、分析に資する機能の提供が可能となる。

2. Web 上において研究機関または研究者自身の手によって、研究情報の提供を行うことも一般的となっている。これらの Web 情報資源の抽出、統合機能を追加することにより、さらに幅広い分析が可能となるとともに、研究者情報ポータルとして展開できる。

現在までに、科研費報告書に含まれる氏名・所属等の研究者基本情報のブラウジング機能とともに、時系列における課題採択・論文報告の可視化、共同研究者表示機能、報告論文の簡易同定、Web 検索エンジンとの連携、Web 外部データベースからの情報取得といった機能を実装した。

今後は、分野毎の採択課題の推移、研究者所属機関の変遷に基づく分析、共同プロジェクト参加に基づく研究者ネットワーク情報の提示といった機能の開発を検討している。

さらに、学術情報リンケージとの関わり、Web を始めとするその他の情報源とのリンケージ・統合を主要な研究課題としている。その他にも、このような研究者基礎情報は、近年特に話題となっている「研究の公正」「不正行為」の議論においてもその活用が重要であり、研究分野を横断した議論が行われると考えられるため、これらの議論にとって有益なシステム・基盤技術の開発も検討していく。

## 参考文献

- [1] 科学研究費補助金データベース. オンライン. <http://seika.nii.ac.jp/>.
- [2] 高久雅生, 相澤彰子, 大山敬三. 科研費データベースにもとづく研究者情報ブラウジングツール. 「大規模データ・リンケージ、データマイニングと統計手法」研究会, pp. 89-96, October 2006.